

創作力 石を穿つ

加西市は日本有数の石文化のまちです。古法華寺周辺には、国の重要文化財に指定された日本最古の石仏をはじめ多くの石仏があります。今回のキリびととは、そんな古法華に魅せられ、これまでに30体を超える作品を製作してきた竹内資郎さんです。警察官を退職後、石彫りの世界へ。その魅力と古法華への思いを語ってくれました。

笠松山登山口から5分ほど岩場を登っていくと、左手に大きなだるまの摩崖石像が目飛び込んできました。「ここから、南の尾根を見ていたら、ちょうど良い岩があって、何か彫りたいなと思いましたが、磨崖仏を見ながら当時を思い出して微笑みます。その大きさは何と畳12畳



巨大な磨崖仏に1人挑む竹内さん。(当時) その大きさがよくわかる。吊り橋からの岩を登ると正面に見える

分。製作に14年の歳月を要した作品となりました。現場より、古法華寺内にある石彫アトリエ館へ下山することに。足を取られやすい岩場ももともとせず、御年86歳とは思えぬ軽い足取りで下り、あつという間に到着しました。そして、椅子に座り「ふう」と一息。お茶を飲みながらゆっくりと振り返りました。

地域の治安を守る

「困った人を助ける。自分の中ではヒーローでした」。遠い記憶を辿りながら警察官になったきっかけを教えてくださいました。下道山町で生まれ育ち、警察官拝命を機に加古川へ移住。まずは長田署で機動隊に配属されます。「希望通りでうれしかった」と当時を振り返ります。異動も多く、転勤は20回以上を数え、中でも一番長く携わったのが機動隊でした。グリコ森永事件や朝日新聞阪神支局襲撃事件など、全国的な事件にも多く関わってきました。



兵庫県警本部年頭視閲式での交通部隊の行進。高速隊長として先導する

警察人生約40年。その間、署長や部長などを歴任。「根気強さや集中力が身に付いた。今に活かされています」と語ります。在任中は、警察庁長官警察功績賞など数々の賞を受賞しました。

無で彫る

実家に帰省中、庭を歩いていると足元に木の端が落ちていました。木を手にとると小さい頃の思い出が蘇り「久しぶりに仏さんを彫ってみよう」と思い立ちました。実は、中学時代から仏教に興味があり、本を読み、仏像を拝観しているうちに、仏像彫刻が趣味になっていました。ただ、これまで誰もが持っている

79歳で巨大石像

アトリエ館に石が届き再び古法華へ。彫ると基本は木彫と同じと分かり、週1回通うようになりました。「固いし大きいから完成した時の達成感が違う」と石の魅力を教えてくれました。そして、石を彫り始めて20年。その実力を認められ、岩壁に巨大な磨崖仏の製作に挑戦することができました。

「岩壁を眺めていると、形がだるまに見えたから」とその理由を語ります。週1回、弁当を持って岩場まで行き、毎回4時間ほど作業に取り組みました。一番苦労したのは顔だといえます。目や鼻、表情にこだわり、体との区別がつくよう



MBS「ちちんぷいぷい」の取材でインタビューに答える竹内さん

にあごの下のあたりは10cm以上彫り込む、それだけで10年かかりました。さらに、目から上の部分は足場がなかったため、岩壁の上を生えている松の木に結んだロープで体を吊り下げて彫りました。

「一回滑ったことはあるよ」と下に木があるから崖の下まで滑り落ちることはないとのことやかに話します。この磨崖仏は歴史スポットを紹介するテレビ番組にも取り上げられました。

魅力の発信拠点に

「出来上がっていく過程が楽しい。生きがいやね」と石を彫り続ける理由を語ります。今では古法華が第二の心の故郷というまでに、大切な場所となりました。自分の作品の記録を残すために書いていた原稿を、知り合いの大学の先生に見せると「ぜひ本にした方がいい」と言われ出版することに。本を書き進める中



竹内さんがこれまでに執筆した著書

おり、今も新作を執筆中だといっています。最後に、古法華への思いを聞くと「ここでの出会いに感謝。石仏保存のためにこれからも協力していきたい。加西の石文化をここから発信していければ」と語ってくれました。これからも古法華石仏とともに竹内さんは歩んでいきます。

すっきゃ かい 広報 5月

表紙	01
キラリびと 竹内資郎	02
特集 加西で楽しむGW	04
市政情報	08
TOPICS 第46回加西サイサイまつり	10
イベントカレンダー	14
まちかど PHOTO ★ニュース	16
くらしお役立ち情報	18
わくわく子育て情報	25
そうだ! 図書館へ行こう	26
かさい消防ニュース	
おくやみ/各種相談	27
とびだせ! かさいっ子	28
がんばれ! 松本隊員	
みんなで使おう加西弁	

KASAI データバンク

R5.3.31 現在 (前月比)
 人口 / 42,093 人 (-91)
 男 / 20,674 人 (-19) 女 / 21,419 人 (-72)
 世帯数 / 18,388 (62)
 3月の出生数 / 18 人 死亡数 / 49 人
 ● 5/10、24 は市民課・国保医療課窓口を延長 (17:15 ~ 19:00)

キラリびと vol.25

竹内資郎 Shiro Takeuchi

昭和11年、下道山町で生まれる。高校卒業後、警察官への就職を機に加古川市へ移り住む。約40年間勤務し、署長や部長を歴任。平成9年県警本部生活安全部長を最後に定年退職。退職後は、古法華石彫アトリエ館に所属し、今までに約30体の石仏を彫る。平成26年、秋の叙勲で瑞宝小綬章(警察功労)を受章。